

新生児集中治療室におけるファミリー・センタード・ケアにとって大切なこと ：赤ちゃん和家人へのより良いケア実践を目指して！

近年、新生児医療では、家族も子どものケアに関わるチームの一員とであり、子どものケア、治療・ケア方針の意思決定に参加することが重要視されています。このように、家族と医療者のパートナーシップを基盤としたケアを行うためのアプローチをファミリーセンタードケア(FCC)と呼びます。

新生児集中治療室(NICU)で働く看護師は、両親の不安やストレスを軽減し、両親の児への愛着形成を促すのに重要な役割を担っています。FCCの観点からみたケアの質向上のためには、NICUにおける看護師の力が大切です。そのため、この研究では、看護師たちがどのようなFCCを実践しているのか、またその実践にはどのような要因があるのかを明らかにしようとしてきました。

研究に協力してくださったのは、30施設のNICUで働く看護師長(30名)とスタッフ看護師(710名)で、質問紙調査を行いました。特に、管理者である看護師長には、NICUの理念・方針・環境に関する施設レベルの質問に答えてもらいました。スタッフ看護師には、FCC実践尺度(日本語版MPOC-SP)とFCC信念尺度(日本語版MBP-FCS)と呼ばれるものを使用して調査をしました。

その結果、スタッフ看護師がFCCを実践するためには、次の4つが関連していることがわかりました。

- ①FCC実践に対する自己効力感
- ②NICU経験年数
- ③FCCに対する信念
- ④両親が24時間面会可か否かという病棟の方針

その中の①FCC実践に対する自己効力感にとって大切なのは、次の3つが挙がりました。

- ①NICU経験年数
- ②両親の子どものケア参加を推奨しているか否かという病棟の方針
- ③きょうだいが面会可か否かという病棟の方針

つまり、NICUの看護師のFCC実践を推進していくためには、家族と医療者間が頻繁に情報を共有し、家族がケアに参加することを推奨し、医療者と家族が相互理解を促すための面会方針や環境をつくること、FCCに関する教育プログラムを策定し、病院が組織的に取り組んでいくことが重要だということが明らかになりました。

本研究によって、NICUの看護師たちのFCC実践が推進され、赤ちゃんご家族がより質の高いケアが受けられることを願っています。